

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第48号
2014年5月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
〒043-2222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

解雇撤回・JR復帰を求める最高裁署名 3万6666筆(14年5月14日現在)

非正規が勝ったぞ！ さあ6・8に結集を

鈴コン闘争支援・連帯共闘会議呼びかけ人代表 花輪不二男



2014年4月16日、それは鈴コンの非正規の仲間が東京地裁632号法廷において勝利判決をかちとった日です。

東京西部ユニオン鈴木コンクリート工業分会3役、内尾分会長、吉本書記長、鈴木会計の雇止め解雇は会社の解雇権濫用であり、懲戒解雇は無効(判決主文)原告が雇用契約上の権利を有する地位にあることを確認する」と判定されました。傍聴席に居た私は思わず原告

解雇撤回10万署名の手応えが明らかに変わり始めています。極限まで推し進められた民営化・外注化・非正規職化がもたらす安全と雇用の崩壊に対して労働者の反撃が始まっています。6・8国鉄集会でさらに前に打って出しましょう。みなさんの総結集を呼びかけます。

や弁護団の顔を見ました。普段はほとんど笑顔を見せなかった大柄の鈴木弁護士がガッツポーズをとっていました。

皆が「ヤッター」と握りしめた拳、更に笑顔、笑顔、支援の仲間たちの喜びのドヨメキを

団結すれば必ず勝てる！

4月18日、私たちは板橋のハライフプラザにおいて「鈴コン闘争勝利報告集会」を開催しました。集会前段では、JR板橋駅頭で街頭宣伝をしたのが、地元だけに鈴コン非正規労働者の完全勝利のピラを受け取るに驚きの声がかれました。

報告集会には、会場に溢れんばかりの仲間が集まり、「オメデトウ」の祝福を送ってくれました。そして、この報告集会の意義を最も確に伝える挨拶を

私は肌で感じ取っていました。最近の労働判例は経営者側に有利なものが多く感じられていただけに、この勝利は画期的な意味を持つものとなりました。対照的だったのが空席の被告席(会社側)でした。法廷の証人席でも「嘘つき」と組合側を罵った強気の鈴木富美子社長や代理人でしたが、予想された敗訴の法廷には出てこれなかつたものと思われれます。

いる仲間にも勇気と確信を与えた画期的な勝利だ。闘う労働組合を作ろう！ 労働者が安心して働ける世の中を作ろう！ 私たちはこの「檄」をしつかりと受け止める必要があります。鈴コンの勝利は第1ステージの結果であると同時に、第2ステージの始まりなのです。鈴コンの闘いも新たな段階を迎えると考えています。

吉本書記長が言うように、この勝利をバネに「職場を取り戻す闘い、会社の支配介入で分裂した労働組合の再建、支援共闘のさらなる拡大」など勝利に酔いしれてはいられないのです。また、鈴木コンクリート工業

地域・産別の組織化へ

次に第2ステージのもうひとつの課題は、闘う労働組合と地域労働運動の建設です。闘う労働組合の組織化はかけ声だけでは出来ません。非正規や派遣切りなどに苦しむ仲間たちに決起を促す必要があります。さら

業務の経験もない中で何かあった場合に誰が責任を負うのか。一切の責任は、外注化を強行したJRと、技術や経験がないのに受託したCTSにあります。出勤してくる労働者に「今日のストはプロパリーの仲間を守り抜くためのスト」とアピール。青年部の組合員も「仕事も人もJRに戻せ」と決意を述べ、動

自体は、従業員30数名の小さな会社ですが、この争議が波及効果を示すようになれば、鈴コンの加盟する業界団体や背景資本も黙ってはいないと思います。今のところ業界側はこの争議を鈴コンのコップの中の争いで関係ないという態度をとっています。しかし、要請に行った私たちが追い出し、内容証明で送付した組合の要請文へのシラを切った回答からは、業界団体の強い焦りを感じ取ることが出来ます。一方、背景資本の住友も関連企業に影響が及べば何らかの手を打ってくるものと考えています。

現在の安倍政権もまた、消費税増税を進める一方、企業減税を図るなど、格差社会を増幅させ、いかに低賃金労働者を効率よく働かせることが出来るかと政策的な後押しをしています。また、労働者の賃上げは「総理にお願い」ではなく、労働者の権利として自覚しましょう。現状は労働者にとって問題だらけです。

私たちが一人ひとりの力は小さいものです。しかし、雨の一滴がやがて大河と変わるように先ず自分が立ち上がりましょう。そして仲間を作りましょう。当面する6・8労働者決起集会への結集を呼びかけます。

国鉄1047名解雇撤回・外注化粉砕！ 10万筆署名の力で解雇撤回判決かちとろう！

国鉄闘争全国運動 6・8全国集会

6月8日(日) 午後1時(正午開場)
東京・文京シビックホール
(呼びかけ) 国鉄闘争全国運動

国鉄闘争の発展かけ6・8へ

文京シビックホールへ大結集を



CT S幕張事業所でスト プロパリーの仲間を守る

わすか半年余の経験しかないプロパーに仕業検査を行わせることは運転保安無視の重大問題であるとして動労千葉は5月2日、JR千葉鉄道サービス(CTS)幕張事業所でストライキを貫徹しました。仕業検査は、国鉄時代ならば

10年の経験、JRでも3年の経験が必要でした。しかし、CTSはわずか6ヶ月の見習い期間でプロパー労働者に仕業検査をさせようとしたのです。一番大変なのは当該のプロパー労働者です。教育らしい教育も行われず車両の知識や検修

争闘 国鉄 全国運動

6・8を新たな出発点に

都内で呼びかけ人会議を開催

都内で5月7日、6・8集会の成功に向けて呼びかけ人会議が開催されました。会議は、現情勢における国鉄闘争の持つ重要な位置をあらためて確認し、6・8集会を新自由主義を打ち破る新たな労働運動の出発点としようと確認した決定的なものとなりました。

討論の冒頭、動労千葉の田中康宏委員長は、これまでの全国運動が国鉄闘争において切り開いた大きな地平を確認した上で、だからこそ「6・8集会を新しい国鉄闘争の出発点にしたい」と提起しました。

「岩盤規制を崩す」と言っているが、『4・9政治和解』を打ち破る闘いとして展開されている」と話し、神奈川の仲間も「地域の組合で訴えても『国鉄闘争は終わった』と言われなくなった。9・25判決の大きさ割・民営化を曖昧にしてはなら

ない」と強く感じている」

「JR体制の崩壊が始まっている。韓国の客船沈没事故はJR北海道で起きていることと同じ。外注化のアクレス隼は安全破壊と雇用の崩壊だ。外注先の労働者に組織拡大できたときに外注化は粉砕できる。地域の労働組合を全国的につなげていくこと自らの職場で闘うこと、この二つで全国運動を発展させたい」

「解雇撤回・JR復帰」10万筆署名の前進については、全日本山労組の長谷武志副委員長が「地域で教組、自治体と呼びかけているが、『4・9政治和解』を打ち破る闘いとして展開されている」と話し、神奈川の仲間も「地域の組合で訴えても『国鉄闘争は終わった』と言われなくなった。9・25判決の大きさ割・民営化を曖昧にしてはなら

国鉄改革法は違憲

最高裁闘争に向けて動労千葉顧問弁護団長の葉山岳夫弁護士は、「国鉄改革法を真つ向から批判する。改革法で不当労働行為が自由に行われた。改革法そ

のものが違憲だという論陣を張って最高裁を闘う」と力強く訴えました。続いて、鈴木達夫弁護士は「われわれの闘いが司法権力に打撃を与えている。6・29判決、9・25判決をかちとった力を再認識している」4・16鈴コンの勝利、全孝連の暴処法弾圧の勝利、梶田事件などを踏まえて、安倍が寺田最高裁判長を据えた。これは闘いが押し込んでいることだ」と訴えました。

新たな労働運動を

呼びかけ人からの発言の中で、鎌倉孝夫さんは「労働の規制を『岩盤』として徹底的にくす攻撃、資本の徹底した利潤追求の中で、労働者を徹底して

そして「JRが日本の中心企業になっていく。JRを主敵にして闘うことの意味があらためて大きくなっていく。核心は青年を労働運動と労働組合で獲得していくこと」と訴えました。井沢壽良さんは「6・8を成功させ、新しい労働運動を登場させたいというのは大賛成。国鉄闘争を27年闘い続けてきたことの意義をもっと広げることだ」と提案しました。伊藤晃さんは「10万筆署名を



動労水戸がストライキ 運行再開の試運転に反対

5月10日、動労水戸は、3・11以降ストアップしていたJR常磐線の広野・竜田間運行再開に反対してストライキを闘いました。JR水戸支社は橋葉町の「帰町宣言」に先駆けて、6月1日運転再開を打ち出しています。竜田駅のある橋葉町の放射線量が国が除染の「長期目標」と

動労水戸が反対姿勢

JR東日本水戸支社から、利用者や原発の不測の常磐線広野・竜田間再開、事故や、被ばくの危険にさらすことを認めない」などを提示された同社労働組合「らすこ」を認めない」などの理由として、同区間の運行再開組合（動労水戸）は「労働」に反対する姿勢を示している。

動労水戸は試運転の10日、いわき市のJRいわき駅前で行った抗議活動を行う。同労組は、同社が昨年10月、再開中止を同社に要求している。



JR九州本社に申し入れ

4・1 国労小倉闘争団 羽廣憲

4月1日は、私たち闘争団員にとつて、2月16日と同様、絶対に忘れられない、忘れてはならない日です。

今年もJR九州博多駅前「解雇撤回・JR復帰、外注化阻止、非正規職撤廃」の宣伝行動をやり直しました。毎月定例の街宣とは違い、直接JRに怒りをたたきつける日と

して闘いました。平日にもかかわらず、ス労自主の仲間やNAZEN長崎の仲間も参加してくれました。

今年もJR九州博多駅前「解雇撤回・JR復帰、外注化阻止、非正規職撤廃」の宣伝行動をやり直しました。毎月定例の街宣とは違い、直接JRに怒りをたたきつける日と

予想通りJRの職員が阻止線を張っていて、本社の敷地に入らせないようしていました。申し入れを受けたいという答えがあったので、その場で竹内代表が読み上げ、口頭で申し入れました。

今年もJR九州博多駅前「解雇撤回・JR復帰、外注化阻止、非正規職撤廃」の宣伝行動をやり直しました。毎月定例の街宣とは違い、直接JRに怒りをたたきつける日と

「それがJR九州の社長の答えということではないんだ」と確認し、申し入れを受け入れないJR九州を弾劾するシュプレヒコールをたたきつけて行動を終えました。

闘争終了後、昨年同様NAZEN福岡とレイバーユニオン福岡の共催で、事務所の前にある山王公園で花見を行いました。満開の桜の下で酒を酌み交わしながら、これからの闘いを準備する決意を固め合い、非常に内容の濃い一日でした。



各地メーデーで署名 全国で約4千筆が集まる

6・8全国集会に向け、解雇撤回10万筆署名の取り組みが各地で勢いを増しています。

メーデー（写真は、全労協メーデー/日比谷野首での署名展開）。

署名の手応えが変わり始めています。戦争と民営化、解雇と総非正規職化の安倍に対する労働者の反撃の始まりです。10万筆の署名を集めきり、最高裁での「解雇撤回・JR復帰」をかちとりましょう。

やるなかで、自分の職場や社会の崩壊状況とJRの解雇撤回闘争のつながりがはつきりしてきた。署名の時に話し込んで理解を共有していくことが重要。署名者が組織者になれば運動は爆発的に広がる」と語りました。花輪不二男さんは「鈴コンの4・16判決は勝利の第一ラウンド。職場での闘いはこれから。支援共闘会議も発展させ、労働運動の再建に向けて闘う」と決意を示しました。

高山俊吉弁護士は「法曹有資格者という弁護士を非弁護士化する制度が出来ようとしている。弁護士の無権限化、非正規化との闘いだ。新自由主義との闘いで国鉄とひとつだ」と訴えました。ス労自主の入江史郎委員長は「